

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業(SPH)

服飾デザイン科 テキスタイル開発に関する研修2
京都研修Ⅱ

【日時】2月27日(土)

【目的】・大学における素材開発、空間デザイン学科、美術工芸学科の卒業展を見学し、オリジナルテキスタイル開発の基礎を学ぶ。

・染色織物工房を見学して、伝統技術の理解とデザイン発想を学ぶ。

【研修先】京都造形芸術大学 染色工房、機屋等

【対象】服飾デザイン科 2年生 15人

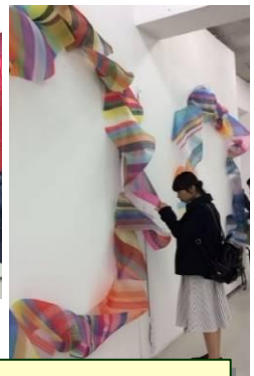
研修の様子と成果

京都造形芸術大学 卒業展見学

桜高校の卒業生であり、美術工芸学科と空間演出デザイン学科に在籍する先輩から解説を受けながら見学しました。



空間デザイン学科では、空間演出が作品に与える影響の強さを体感



美術工芸学科では、和と洋、伝統文化と最新技術のコラボレーションに魅了された。

大学の卒業展見学では、作品展示における空間演出の重要性を学びました。また、アートは他の分野とコラボレーションさせることで新しい発想が生まれ、メッセージを発信し、社会とのかかわりが深まることを知りました。ファッションの提案にも応用していきたいと思いました。

染色工房と機屋見学&体験

西陣織、友禅箔染めなどの工房見学と体験をしました。

龍村高峰の
工房にて見
学体験



西陣織会館で機織り
体験



和楽にて箔染め体験



素材マーケットリサーチ



素材・糸専門店のリサーチ



絞り素材の
新しい活用

グループ毎に研修計画を立て、染色工房や機屋にて体験見学をしました。日本の伝統文化の奥深さと繊細な職人技に魅了され、時間を忘れるほど夢中に体験することができました。

特殊な糸を扱う店舗や伝統的な絞り染めを現代ファッションに取り入れている店舗のリサーチでは、伝統文化の新しい魅力を発見することができました。

今回の研修では、現代に残されている伝統文化の形は、発祥したときのそのままの形ではなく、現在に至るまでに携わった人や時代に応じて進化し、受け継がれてきたものだと感じました。今後のオリジナルテキスタイルデザイン開発に向け、視野を広くもち、日本の伝統文化の魅力を再発見できるようなデザイン発想をしていきたいと思います。